

熊本「新老人の会」

会報



会 長 小山 和作

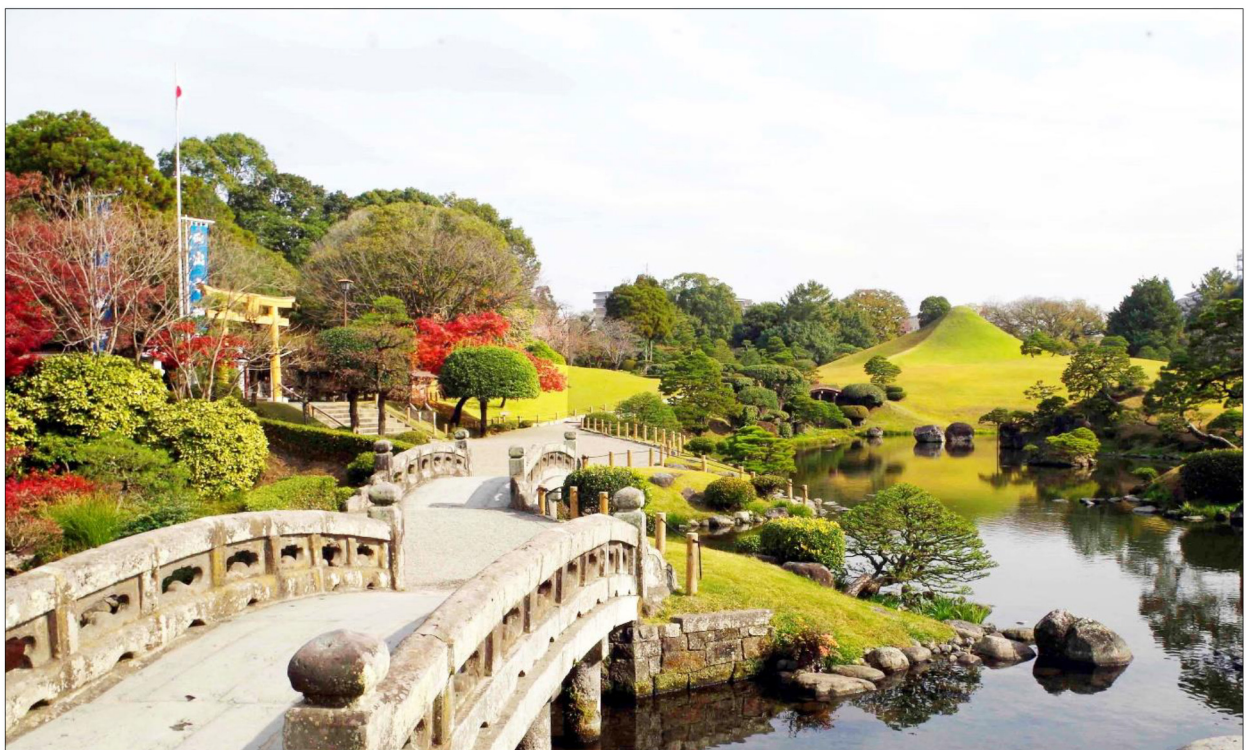
事務局長 久米野 安俊

〒861-2234 熊本県上益城郡益城町古閑312-2

TEL/FAX 096-221-5113

発行 2021年1月

No.80



豊かな緑の中に紅葉が映える水前寺公園（12月13日 平川 寛会員撮影）

目次

☆2021年 新年号	表紙	☆高校平和学習講座	9
☆巻頭言	1	☆平和学習生徒の感想	10
☆丑年の抱負	2～4	☆平和ミュージアム設立の経緯	11
☆危うく詐欺に	4	☆亀川クリニック紹介	12
☆月見の会報告	5	☆転倒・骨折・認知症	12
☆城下町を歩く会に参加して	6	☆事務局通信 編集後記	13
☆サークルの活動報告	7	☆サークルの予定	14
☆会員文芸	8	☆広告	裏表紙

「コロナ禍」から学ぶ

熊本「新老人の会」会長 小山 和作



今から丁度1年前の2019年末に中国で発生したウイルス性感染症はその

年の年号をとって「COVID-19」と命名されました。巷では分かり易いように「新型コロナウイルス感染症」といい、略して「新型コロナ」もつと「コロナ」というだけで通じるようになりました。その1年前の今日、この「コロナ」がこれほどまでに世界的に大流行するとは誰が想像したでしょうか。テレビも全てのマスコミも連日「コロナ」の話です。1年たって一時収まりかけた流行が今第3波の波がやって来て世界中が不安と恐怖と混乱の中にあります。頭の中はどうしても「コロナ」の呪縛から離れることが出来ません。やはり「コロナ」について書くことにします。

ほぼ100年前「スペイン風邪」が流行

し、パンデミックに発展したことは知る人ぞ知るです。しかし、このスペイン風邪は

丁度第1次世界大戦の後半と同時期です。

第1次世界大戦といえは世界中の国が参戦

し、正に人類史上未曾有の戦争として歴史

に残っています。この大戦での戦死者は約

1千万人といわれます。しかし、スペイン

風邪で亡くなった人は全世界で5千万人以

上といわれ当時の世界の人口の約3%に当

たります。一般には第1次世界大戦は知っ

ていてもスペイン風邪がこれほどの猛威を

振るったということは余り知られてはいま

せん。それから100年、医療は大きな進

歩を遂げています。それ故、我々医療人も、

一般の人は尚更、感染症を軽く視していた

ではないでしょうか。

そこで「コロナ禍」に対し思いの一端を

述べてみたいと思います。

先ず初めに、今日国家安全保障の名のも

とに世界中の国は多額の軍事費を使い仮想

敵国への備えをしています。スペイン風邪

の教訓からしても、人類の敵は同じ人類同

士ではありません。ウイルスという人類共

通の敵と戦うため軍事費を削減しその分で

世界が手を携えてウイルス対策に取り組ん

で欲しいものです。日本が率先してリーダ

ーシップをとって欲しいと考えます。

次に、「いのち」と経済の話です。人々

の暮らしを守るため経済は大切なことで

す。世界の指導者たちは「いのち」を守り

つつ経済も立ち行く様にと考えて政策を遂

行しておられるようですが、どう見ても経

済が優先しているように思えます。「二兎

を得ようとすれば一兎をも得ず」の諺のご

とく、このパンデミックの時に「いのち」

を守ることに軸足の比重をかけて欲しいと

思うのは私だけででしょうか。「いのち」が

あれば必ず経済は立て直す事ができます。

世界はスペイン風邪以外にいくつもの感

染症に見舞われました。過去の体験は忘れ

がちです。辛かった体験は尚更記録にとど

め、今と将来に生かされな

ければなりません。「戦争

と平和の祈念館」もそのた

めに創りたいのです。



小山会長からは、「今なぜ『戦争と平和の祈念館』を作ろうとしているのか？」という訴えが寄せられています。別紙で同封していますので合わせてお読みください。(編集部)

丑年

年女・年男の抱負

令和3年



思い出

江上経誼 (83)

立田山を歩いていると小学校の時、熊本県民の歌として憶えた「菊池尽忠の歌」を歌いながら下りて来られた方と出会った。菊鹿盆地出身の徳永武久先生であった。先生の推薦で新老人の会に入会した。入会してみると九州学院の先輩の佐藤武敬氏がおられた。この学年は優秀な方々が多く、熊大医学部長をされた宮川太平先生等がおられる。

医学部にはいり、馬術部に入部した。その時の先輩が伊佐二久先生である。先生は陸軍士官学校を卒業された。今の人は大尉がどれくらい偉いか分からないだろうが、中隊長を務められている。そんな方が過去を捨てて戦後医学部にはいられ、馬術部でお教えを受けた。学生時代、スポーツと学問に悩んでいた頃、先生か

ら「スポーツをする時は馬鹿になりなさい」と言われ、卒業出来た様なものである。その頃の医学部は城内にあり、練習場に恵まれていて、私は3度国体に出場した。

小山会長は一学年上である。後輩に山鹿中学校の大代君が居る。彼とは管弦楽部で一緒であった。その他、鬼塚和子さんが大先輩としておられる。開業して乳児検診に出勤した時お世話になった。二塚信先生は失礼ながら医学部の後輩である。

最近、胸の違和感があり、調べたらひどい石灰化がみられ、RI検査までした。そろそろ終活の準備を感じている。新老人の会に終活を議論するグループがあれば・・・と思っている。(小児科医)



感染症と

口腔ケア

高森経義 (83)

謹賀新年。皆様には佳き正月をお迎えることと拝察申し上げます。昨年はコロナの1年でした。年頭所感抱負をとのこ

とでしたが、私的にはコロナの完全収束後が年始の積もりで所感抱負にはいきついてません。それよりも今から本格的に真冬で感染症が増加すると考えられます。

特に口の中の歯周病からの出血・細菌で相互関係にある糖尿病や肺炎、心不全等基礎疾患で免疫力低下の可能性で感染症併発した場合に重症化するリスクが高いとされます。口腔の健康状態が良く保たれている人は生活自立度が高く、長寿の傾向が知られていますし又、体の健康を守ります。年頭の所感抱負とは全く別な事を書き、申し訳ございません。皆様、今年はコロナ収束を期待し健康に留意され元氣にお過ごし下さい。(歯科医)

丑年に寄せて

田口紀美子 (83)

次に迎える丑年は何回目かなと、自分に問うても、年老いた頭は、何も答えてくれない。仕方なく指折り数えて、生まれた年も加えて8回目と判る。

中には若々しく過ごした丑年もあろう

し、充実した年もあったろう。それらを乗り越えて、今日、83歳の自分がここに居る。

健康に産み育ててくれた両親に感謝すると共に、自分自身も又、温かく子孫を見守り、微力乍ら後輩を支えて行かなければならないと思っている。

新老人の会の更なる発展を念じ除夜の鐘を聞く事にしよう。



出合いに感謝

中川 久 (83)

明けましておめでとうございます。

私は昭和19年、6歳の時、法定伝染病ジフテリアを患いました。その時、医専から来られたお医者さんは私を昼夜付き切りで看病に当たられて、命を助けて戴きました。そのお医者さんはその後、南方で戦死されたと戦後に知りました。昭和39年、26歳の時、一級建築士の試験に受かり建築設計事務所を開業致しました。開業して最初のお客様は病院の院長先生（杉村国夫先生）で、病院建築の

設計のご依頼でした。それより以来、病院建築に50数年携わる事になりました。病院の設計が私のライフワークと成りました。色々な会や団体に入会しています。中でもライオンズクラブ歴52年（推薦は原泰男先生）、倫理法人会歴40年（推薦は金澤幸一先生）、新老人の会歴は12年に成ります。いずれの会への入会もお勧めはお医者さん方でした。人様との出会いに感謝で一杯です。之からの残りの人生を健康に留意して人様のお役に立てたら誠に幸せと思っております。宜しく願い申し上げます。



「笑顔」で 穏やかな日々を

坂田保美 (71)

クリスチャンの友が「出来るだけ笑顔でいなさい。作り笑いでも、うんと笑っていなさい」と諭して下さいました。21歳で父を失くした私は、この頃しきりに亡き父のことを思い出します。ビルマへの出征から、命からがらに帰った父。その後私は、父の43歳の時の子でした。

私は「美しさを保つ」子であるように名づけられたとか。「あんたの笑顔は得難く尊い」と高校の数学の先生が、「本当の美しさは心からにじみ出るものです。」と、中学の技術家庭の先生が、書かれた私へのサイン帳の言葉でした。今年も時間の許す限り、長きお付き合いをいただいている大切な人生の大先輩を、笑顔でお訪ねしたいと思っております。コロナ終息を心から祈りつつ・・・。



新年の抱負

山口由弘 (47)

明けましておめでとうございます。

私は昭和48年生まれで、今年48歳になります。平成30年に入会し、年に1・2回しか活動に参加できませんでした。何かお手伝いでもできればと考えておりましたが、今度はコロナ騒動で・・・。

昨年を思い返すと、この社会で何ができるかと考える一年でした。

私は『家の片付け』を生業としています。昨年は外出自粛中に家の中の整理・片付

けをされて動かせない重いタンスなどの搬出依頼や他県在住のご家族がコロナウイルス感染拡大防止の関係で帰省できない事などで、代わりにご実家を片付けて欲しいとのご依頼、この2点が殆どでした。

その昨年を踏まえ、今年は遠方にて帰省できないご家族やお片付けができない方に今まで以上に優しいサービスを生み出し、社会のお役に立てるよう精進し邁進していきたいと思っております。どうぞ皆さま、ご指導ご鞭撻のほど宜しくお願い申し上げます。

☆丑年ビッグニュース

・昭和12年（1937年）

6月 近衛（文麿）内閣組閣される

7月 廬溝橋事件日中戦争勃発

・昭和24年（1949年）

2月 第三次吉田（茂）内閣成立

11月 湯川秀樹教授ノーベル賞受賞

・昭和36年（1961年）

4月 ソ連の宇宙飛行士ユーリ・ガガーリン初宇宙飛行に成功

・昭和48年（1973年）

8月 金大中事件起きる

11月 江崎玲於奈氏ノーベル賞受賞

**大変貴重な体験をお寄せ頂きました
皆様もお気をつけ下さい。一人で考えず助け合いましょう！**

危うく詐欺に

鬼塚和子（91）



12月の初め、固定電話に若い女性から「大変遅くなりましたが、台風の際の被害調査がやっとそちらの地区になりました、保険会社より依頼されてそちらのお宅に伺いますが明日のご都合如何ですか」とのこと、「在宅します」と返事した。

翌日、背が高く若い青年がやってきて、外を眺めて「アンテナやいろいろやられていますね、うちの会社でややこしい書類は作りますので」と社名入りの名刺を出して書類の説明を始め、「分かったらチェックして下さい」とチェックさせられ、「ではサインをお願いします」とサインをさせられた。その後「お金が出たら、うちの会社で40%を戴きます。2〜3日うちに他の者が詳細を調べに来ます」ということだった。その後娘がきて、「保険会社に聞いたの」と言って会社に問い合わせると、「そんな個人情報流していません」とのこと、『保険会社からということ、お金は要らない』とのことでした。

以上のことに頭が働いていなかった。

その後、娘が消費者センターに電話をしたら「検査にきて、いろいろな所が悪くなっている。相当のお金がかかります、それはあなた持ちです、ということになりますよ」などを教えてもらってるところに、また先ほどの青年がやってきた。娘が「今消費者センターにお断りの相談をしているところですよ」というと青年はそこそこ帰っていった。

そこからクーリングオフの手続きに入った。書式があり、コピーを両面とったり、郵便局で決められた切手を貼ったり、5年保存の義務づけなどなどやると手続きが済んだ。娘がいてよかったです。助言がなければどうなっていたかと思うと、反省とショックで不安な日々である。

いつもは留守電にしているのにあの時はなぜ？家が築50年、瓦や壁の塗り替えの勧誘も多い。その度に主（あるじ）がいませんとか言って断っていた。「歳を考へ周囲に甘えて生活したら」との助言もある。主人が亡くなり35年、一人で生きてきた癖がなおらない。おおいに反省して今後の生活をしたと改めて思った。

月見の会報告

佐藤 武敬（86）

10月1日（木）の夕方、熊本城二の丸公園で開かれました。5時前から三々五々集まり始め、最終的には男性11名、女性6名、計17名になりました。

広場には他の団体の姿は見当たりません。私達も、お酒を飲んで大声を出すのは控えようと、自覚しながら集まりました。

しかし、ただ黙々とビールを飲んで、弁当を食べるだけでは芸がない。ひとつ俳句会でもしてはどうかとの提案が、小山会長から出ました。

事前の連絡をしていなかったため、皆は突然の事で面食らったと思いますが、全員快く（？）応じてくれました。



最初に、世話人から①五・七・五の十七音にすること、②季語をいれること、の二つのルールと「月」に関する若干の季語を紹介しました。

続いて、会員の中で最も俳句歴の長い平川寛（俳号礁舎）さんから、名月を詠んだ名句十一句のプリントが配られました。芭蕉の「名月や池をめぐりて夜もすがら」一茶の「名月を取つてくれろと泣く子かな」以外に三上千那から高浜虚子に至る九句も含まれ、それぞれについて鑑賞して頂きました。

皆の頭が少し俳句に馴染んできたところで、用紙が配られ、それぞれ一句ずつ無記名で投句しました。

集まった句について、平川さんに選句・講評して頂きましたが、全句が佳作、うち三句が秀逸とのことで、その分だけは名乗りをしました。

作品は次のとおりです。

満月の宴も淋しやディスタンス（和夫）

満月を仰ぐ米寿の頸いたし（和作）

酒あれど踊り歌なき月の宴（武敬）

名月や天守閣の闇に映え

名月や兎のもちつきみたいな



名月を待っているのにまだ出ない

お月見に兎のついたもち供え

中秋の二の丸広場や月と城

コロナ禍のひとりで見ている月の顔

今年も出るまで待つよ城月夜

名月や一人さびしく泣く子かな

気がつけば寒さわすれて拝む月

名月をお城と遊び新老人

名月や新老人の歌つどい

名月の月にかこつけ老人会

観月や四年過ぎたる城普請（選者）

なお、目的の満月は6時半頃、卵の黄身のような姿を現しました。

月の円形と城の直線の対比が印象的でした。

（写真は携帯で会長・事務局長が撮影）

「第10回 城下町を歩く会」に参加して

11月8日(日)実施

江浦 誠 (60)

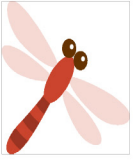
15名で歩いた今回のコースは細工町5丁目〜河原町織維問屋街までの1.5km。

私が社会人1年目に歩いて飛び込み営業に回っていた大変懐かしい地域でもありません。出発式で代表がおてもやんの話しをされている時、西村さんが、「川端町つあん、きやあ巡ろ」と口ずさまれました。

「そういうことですか！」私は60年生きてきて人の名前とばかり思っていました。

その後向かった普賢寺で更に詳しく「おてもやん」の歌詞の意味を知ることになります。往時の賑わいが蘇って来るようなご住職のお話しに聴き入りました。何よりあんなに立派なお寺さんがあの場所にあった

事を改めて知りました。毎回楽しい楽しい歩く会でした。



当日の応募作品

【川柳】

階段を押されて登る古い家

西村文夫

古い家・・・早川倉庫、明治初期の建築物

【俳句】

古刹庫裡語る老師の秋深し

西村文夫

清正公遺す家並の冬構へ

中川 久

落葉降る藩の名残の並木道

〃

供へある菊の匂へる団子地蔵

平川 礁舎

肥後菊や屏風の前に鉢ながら

〃



細工町5丁目おてもやん像前
コロナ感染が終息しない状況下で人数を15人に制限、マスク着用、大声で話さないを徹底しました。

築125年の町家、通りに面した座敷には格子が嵌め込まれています。林田酒造の川端町別宅(明治期)。今は血縁の方が住んでいる。



古桶屋町の普賢寺(浄土真宗西派)は民謡「おてもやん」の「夜聴聞詣り(ヨジョモンミアリ)」で知られる古刹です。坪井川に架かる一駄橋から来るときは川端町を大回りすることになり「川端町つあんきやあ巡ろ」となるわけです。住職からそういう説明を聞きました。

サークル活動の報告

1・童謡・唱歌を歌う会

牛嶋 邦子（72）

11月7日（土）1時に、集まりました。

パレアの音楽室が使用休止となり、長期の休みが続いたため、「歌うことができなくても、一度皆さんで集まりましょう。」との呼びかけで、17名が参加しました。一人ずつの現況挨拶は、久しぶりの再会とあって、積もった話が弾みました。



現状報告（パレア）

月一回のサークルで歌っていると、子供の頃の情景が記憶に浮かび、心が和み、気持が若返ります。

また、口を大きく開け、声を出し、姿勢を正し、頭もリフレッシュできる、健康面でも素晴らしいサークルです。

皆さんと再会できて、人とのつながり、交流の大切さを改めて痛感しました。

早くコロナ禍が収束し、歌える日が来ることを願うばかりです。

2・オープンハウス「KATARO」

瀧口 巖（69）

9月の活動は「新老人の会」の会員の方を中心に、地域ごとに声を掛けて3回実施しました。参加者は10名程度で、楽しいお喋りや軽い体操を混ぜて行い、大変喜んで頂きました。

10月も井芹邸にて別の地域にお声掛けをして、3回実施しました。また、益城町でも今年第1回となる活動を、10月23日にシャンソン歌手の中村春子さんをお招きして実施しました。参加者は16名でしたが、歌とトークに加え、後半には一緒にお喋りにも参加して頂いて、皆さん感動しながら楽しんで頂きました。

11月は井芹邸近くの帯山地域の方々に声掛けして、2回の活動を実施しました。

12月も帯山地区を2回予定しましたが、コロナの感染者がどんどん増えてきたので、1回の開催になりました。益城町において2〜3回協議しましたが、今年の開催を見送りました。

なおこの間、スタッフの研修も2回実施して、スキルアップもしっかりと行っております。

3・俳句教室「鶴亀句会」

佐藤 武敬（86）

10月にまた会員が2人増え、投句を1人3句に減らしました。

また、選句の発表をする時に、その句を選んだ理由も説明し、作者の方も自分の思いなどを語ることにしました。

さらに、清記や選句をし易いよう、枠をプリントした用紙を考案しました。



12月例会を終わって（パレア）

会 員 文 芸

川柳 11月例会古閑萬風選

嫁冥利姑とすんなり丸く住む 森上裕子

老いてなお小さく丸く母励む 江藤恵子

しかめ面お世辞を聞くと丸くなる 十時貴子

投げた恋手心えもなく宙に舞う 山口玲子

丸くなる年取る毎に角がとれ 西村文夫

落葉して丸い輪広がる秋の池 加藤美寧

四苦八苦やつと貰えたマル印 高橋純子

まん丸い月が頼りの千鳥足 久米野郁子

投げとばす正代関に万歳す 鬼塚和子

投げとばす勝負の世界ど根性 生森美代子

丸いっぱい貰ってはしやぐ三歳児

谷山律子



俳句 11月句会 山澄 陽子 選

初時雨老けたる友と出会ひけり 佐藤武敬

掃く人に挨拶しつつ散る落葉 〃

掃き寄する音の大きく冬に入る 岩城小夜子

散紅葉今朝も掃きある駅舎かな 〃

平家村鎮めて深き紅葉谷 澤田安月子

立冬や老舗の蔵の大吟醸 〃

立冬や不知火の海静かなり 山内良一

冬浅しぎんなんの実のをちここに 〃

身構へる猫の目先に寒雀 小林優子

癌の友作りしマスク冬うらら 〃

暮れなずむ道の灯りの石露の花 木村純子

立冬や天守を守る武者返し 〃

立冬の干潟彩る海苔の櫓 中川 久

朝露に水鳥群るる江津湖畔 〃

立冬やセーラー服の紺深し 平川礁舎

坪庭の齒朶の緑や今朝の冬 〃

白い花近寄り見れば冬の蝶 小山和作

コスモスの花波にゆれ阿蘇五岳 〃

短歌 会員 歌人詠

中川 千鶴

勝つまではそのひと言に戦へり

かかる変遷の世に生かされて

非常時に学業返上も淡き夢

令和うらら九十路深まる

藤井 末津子

仏壇の父母の遺影は微笑みて

三十三回忌吾も笑み返す

息子逝き四年目の春迎えたり

あの日散りたる君子蘭咲く

☆高校平和学習に出前講座☆

元高校教師上村真理子さんは、戦争に関わる資料をたくさん集めています。八代高校からの要請で、戦争中の子どもへの教育や、子どもを取り巻く社会の様子などを、具体的な『物』を通して講話をしてくれました。

上村さんに講話の概要を書いてもらいました。併せて子どもたちの感想を紹介します。

八代高等学校出張講座

上村 真理子(67)

11月20日、一年生対象に「戦争による学園生活の変化―軍国少年少女時代―」というタイトルで約90分お話ししました。



先生も生徒も、話をする私も全員戦後生まれです。「最初に3年前12月8日RKのニュース番組で放送された「戦争と子供」を見てもらいました。番組では、新老人の会安藤富士記さんが、熊本空襲のご体験を語られています。「早く大きくなって兵隊になり支那(中国)をやっつけたい」「家が焼けても最後は神風が吹き日本が勝つと思っていた」という発言に、生徒は教育の恐さを感じたと思います。次は、私が勤務した学校のアルバム写真を活用して、日中戦争以降、戦時色が強まる学校の様子を伝えました。最後に、戦争時代の絵本・紙芝居・教科書等を紹介しました。お国の為天皇の為に尽くして死ぬことを名誉とする当時の洗脳教育の凄さには驚かされます。昭和16年から国民学校で使用された二年生の修身教科書には、「日本ヨイ国、キヨイ国、世界に一つノ神ノ国。―世界に輝ク偉イ国」のような自国の自画自賛文が掲載されています。生徒に対して公正な判断力を育てるのではなく、神の国の為に惜しみなく命を捧げることが生徒に強要されたのです。

昨年2019年度から「探究」という科目が高校に新しくできました。情報を鵜

呑みにするのではなく、生徒自らが調べていく時間です。私は昭和の戦争時代に24名の生徒対象に、探究の時間でお話できたことを光栄に思います。今回の講話で、私は「なぜ?という疑問をもつこと」「自分で考えること」の大切さを生徒に伝えたいと思いました。講話終了後、八代高の生徒さんは何人も手を挙げて熱心に質問してくれました。皆さんは、今後さらに探求活動を進め、レポート作成等に取組んでいられるとのこと、私の話がお役にたてば嬉しいし、私自身高校生からエネルギーをいただいた時間になりました。



八代高等学校は以前にも「戦争体験者と高校生が伝えあう平和への思い」と題し、『つなぐ そして未来へ』というイベントを企画されており。今回は出前講座に参加された24名全員から感想文をいただきましたが、抜粋して掲載致します。

◆私は戦争の映画を見たときに、「なぜ当時の学生たちは、若い命を落とすことを惜しまず、国の為に戦うことができるのだろう。怖くないのか」と疑問に思っていました。しかし、それは今だからこそそのような考えが思いつくのだと実感しました。今までは戦争を身近なものと考えずに、単純に恐さだけを学んできたのだと思います。



今回の講演で、戦争を身近に感じました。当時の学園生活も、子供達が描き読んでいた絵本やポスター、それを見ながら上村さんの話を聞いて、本当に戦争が全てだったんだと実感しました。教育を受けるうちに戦争に洗脳され、軍国主義者になったんだと、本当に怖いと思いました。おかしいと疑問に思ったことを、自ら問い、解決できるようにわかるまで問い続けたいです。

◆今日の講演を聞いて、今まで自分たちでも戦争について調べてきたなかでも、勉強になることはあったが、実際に実物の資料を見たり、経験者の方のお話を聞くことが出来て、さらにリアルに戦争のことがわかった。戦争中の教えを子供が本当に信じていてとても驚いた。これからも戦争について学び、他の人たちにも広めていきたいと思った。

◆一番強く心に残ったのは「洗脳」という言葉です。天皇の為に死になさい。日本は神の国であり絶対負けられないということが小さい頃から教えられていて、戦況が悪化しても戦争を止められないということにつな

がっていったと思います。

今後日本が戦争をしない平和な国にするには、過去の歴史を正しく知ることが大切だと思います。これからは歴史についても調べていこうと思います。



◆戦争中の子供は、純粹に国や学校の影響を受け、日本に誇りを持って戦っていたんだなと思った。

私たちが知っている知識は一部に過ぎないので、皆に伝えていくにはもっと知識を増やして、自分の考えを深めていかなければと改めて感じた。

戦争を憎む、批判をするのではなく、国のために命懸けで戦って下さった先人に敬意を払い、生きていかなければならない。

くまもと平和ミュージアム建設へ

設立準備会の歩み

安藤富士記 (90)

前号(10月発行の会報)でお知らせしたように、平和ミュージアム建設を目指す運動は昨年8月の県知事・市長への協力要請からやつと動き出した感じですが、なかなかテンポが上がりません。もう一度スタートからの経過をたどってみたいと思います。

2017年9月9日

「戦争を語り継ぐ会」例会100回記念のシンポジウムの討論の中で「熊本に平和祈念館を創ろう」との提案があり、満場一致で可決。

2018年5月13日

戦争と平和のミュージアム「ピースくまもと」仮

設立準備会発足会

参加団体「新老人の会」戦争遺産フォーラムくまもと(9団体で組織)各団体代表者、個人有志



で事務局を構成。「新老人の会」からは小山会長が代表・上村真理子さん・安藤が副代表で参加)以後隔月に事務局会を開き建設へ向けての討議を重ねてきました。

2019年8月24日〜26日「戦争遺跡保存全国シンポジウム熊本大会」が熊本市で開催され、ピースくまもとの事務局が総力を挙げて取り組むため「平和ミュージアム」の活動を一時休止。

2019年9月から事務局会を再開したものの体制が十分には整わず、2020年に入ると「コロナ禍」のために2月〜6月活動停止。7月から活動再開、8月の県知事、市長訪問。そして9月からは毎月事務局会を開き、更に11月からは事務局会の当日、午前中に役員会を開くことになり多少スピードアップが出来ようになりました。

12月の事務局会では趣意書の確認、法人化を目指し「新老人の会」の佐藤武敬さんにNPO法人の定款の素案(A4用紙7枚)を作成してもらい、討議もある程度前進しました。

今年はいよいよ実動開始です。「新老人の会」が動かなくては仕事は進みません。会員の総力を挙げて取り組んで行きましょう。

お薦め

日野原先生の本



「教育9条の会」の会報に日野原先生の憲法観を書いてほしいとの依頼があり、改めてこの本を読んでみました。

本の帯には「日本国憲法は『いのちの泉』のようなもの」と記されており、「はじめに」には先生の生き方に関わる出来事として「東京大空襲」「よど号事件」「サリン事件」などを挙げてあります。これらが先生の平和に対する思いの根幹になっており、日野原重明先生の生涯は真に日本国憲法の体现であったのではないかと感じます。

内容としては「日本国憲法とはなにか」「世界のさまざまな憲法」「憲法改正をめぐる動き」「日本国憲法へのわたしの思い」「君たちにお願ひしたいこと」に章立てされ、解りやすく記述されています。

表題は「10代の子供たちへ」ですが、80代、90代、いや全ての世代にぜひ読んで欲しい本です。(安藤 記)

熊本「新老人の会」の関係者には様々な業種の方がおられます。会報に広告を頂いている方にご投稿頂きました。

住み慣れた家で療養したいという方の

希望を叶える『在宅医療』

亀川ひかるクリニック 亀川寛大 院長



「身体機能の低下で、自宅からの通院が困難になってきたが、継続して医療を受けたい」「治療は困難だが、退院して自宅で治療を受けたい」という希望に寄り添う『在宅医療（訪問診療）』を利用される方が増えています。

このコロナ禍に於いては、「長時間の病院通院が大変」「高齢であり外出したくない」とのお声を頂き、多くの方から新規の訪問診療のご依頼を頂きました。

『在宅医療』とは、医師が定期的（1ヶ月に2回程度）に自宅や施設を訪問し、治療を行う制度です。

在宅医療の目的は病気の治療だけではない

ません。転倒や寝たきりの予防、肺炎や褥瘡（床ずれ）等の予防、栄養状態の管理など、予測されるリスクを回避し入院が必要な状態を未然に防ぐことも重要な役割です。

定期的な訪問の他にも、24時間365日、電話での相談、緊急の往診、専門病院への紹介も行いますので、住み慣れた家にながら急な体調の変化にも対応できます。

また自宅にいなから血液検査や尿検査、必要な際は心電図や胃ろうの交換等もできます。

在宅医療は、訪問診療する医師をはじめ、ケアマネージャー、訪問看護師、ヘルパー、薬剤師がチーム一丸でサポートを行います。主には在宅医療、早朝・夕方の内科外来を行っています。

詳しくお知りになりたい方は、お気軽にお電話にてお問合せ下さい。



亀川ひかるクリニック

熊本市中央区帯山3丁目

TEL・096-201-7414

痛い 転倒 骨折 認知症との闘い

安藤富士記（90）

12月11日午後8時頃、妻（92）が写真の籐椅子から立ち上がろうとして転倒し左手首を骨折しました。近くの整形外科は診療を終えており、かかりつけ病院の紹介で、機能病院で応急処置をしてもらい、14日に再診を受けギブスを付けてもらいました。21日にもう一度診察を受け、指先だけは動くようにしてギブスで固定してもらい年を越しました。

ここまでは、有ってはならぬことながら年離れた女性ではまま有ることだそうで、用心が肝要ですが、妻の場合これからが大変なことになりました。認知症がかなり進んでおり、今回も怪我をした時のことは全く記憶になく、ギブスをなぜしているのか理解が出来ません。「右手はこんなに動くのに左はなぜこうしてはいなくてはいけないの」と1日に何十回と繰り返し、目を離すとギブスをはずそうとします。説明すると聞いてくれる時もありますが怒り出したりの繰り返しです。

デイケアが休みの年末年始は認知症との闘いの毎日でした。



事務局通信

事務局長 久米野安俊

【会員の受章者紹介】

『叙勲』

《瑞宝中綬章》受章

二塚 信 氏（80）

※「瑞宝中綬章」とは

国家又は公共に対し積年の功労がある者に授与する瑞宝章の中の3番目に位置する勲章で、国の部局や大学で長を務める等の功績ある人に授与される。

二塚 信 会員の紹介

熊本大学医学部の公衆衛生学の教授を永年お勤めになり、現在はその名誉教授であります。また、九州看護福祉大学の学長も歴任され、その間、教育・研究はもとより熊本県の保健福祉行政に大きな貢献をされました。その後、熊本大学医学部同窓会長を務められるなどの功績から、令和2年度熊本大学医学部卒業生表彰も受けておられます。熊本「新老人の会」には、2014年に入会されました。現在世話

人として会の運営に尽力されています。特に講演会担当世話人の代表として、「市民公開講座」「令和養生塾」などの計画・運営の中心として本会の発展に寄与して頂いております。

【新入会員紹介】

寺尾 勇 様（73） 上益城郡益城町
直子 様（93）

【2月～3月の主な行事予定】

講演会

日 時…3月11日（木） 13時15分受付

会 場…県民交流館パレア9階会議室1

講演者…二塚 信 先生

演 題…「歴史上の新型コロナウイルス感染」

※受講対象者は会員の方のみで、入場は無料です。

お花見会

日 時…3月27日（金） 12時～

場 所…熊本城内「二の丸広場」

参 加…自由参加（雨天中止）

※飲み物や食事は各自で準備してご持参ください。

新型コロナウイルス感染拡大により、ご存じの通り、本県に「緊急事態宣言」が発せられました。実施は難しいかもしれませんが、感染が終息する事を祈りながら、計画通り掲載いたしました。中止する場合は改めてお知らせします。

編集後記

委員長 安藤富士記

あけましておめでとうございます。

コロナに明け暮れた昨年でしたが、今年は少しでもいい年にしたいものです。

会報新年号は、例年であれば記事が溢れるほどあるのですが、今年は記事を探すのに苦労しました。「新老人の会」としての様々な行事が中止され、皆さんの活動を紹介する事が出来なかつたからです。委員の奮闘で、何とか発行に漕ぎ着けることが出来ました。年末から年始にかけて6回の会議をしました。公的な会場が使用できず「KATARO」で使用しておられる「井芹邸」をお借りしています。次号では、会員の方々の個人的活動の報告などで編集出来たらと考えています。

原稿大募集

旅行記、趣味の紹介、エッセイ、写真、読書感想文、テレビ・ラジオ視聴の感想等々題材は問いません。どしどし投稿してください。

原稿送付先（左記） 安藤富士記 迄）

〒861 8005

熊本市北区龍田陳内3-24-21

TEL (096) (339) (2537)

会報編集委員に託されても結構です。

（編集委員） 安藤富士記 加藤美寧 久米野安俊
佐藤武敬 津川光星 中川久 平川寛 堀田耕三

☆ 熊本「新老人の会」 サークル・教室等開催予定 ☆

サークル名	会場・時間	1月	2月	3月	4月	代表連絡先
カラオケ同好会	銀座通り水田ビル 地下1階「プレール」 13時～16時	中止	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			山内 良一 323-1253
戦争を語り継ぐ会	ウェルパルクまもと 14時～16時	中止	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			安藤富士記 339-2537
童謡・唱歌を歌う会	県民交流館パレア 10階「音楽室1」 13時～16時	県民交流館パレアの「音楽室1」が使用できません。当分の間休止します。				牛嶋 邦子 090-3664-1851
健康麻雀クラブ	銀座通り竹葉ビル3階 雀荘「憩」 13時～16時	中止	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			津川 光星 090-8298-0101
俳句教室 「鶴亀句会」	県民交流会館パレア 10時～12時	紙上句会	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			佐藤 武敬 364-0612
川柳教室	県民交流会館パレア 9階「第5会議室」 13時～15時30分	中止	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			森上 裕子 352-9307
スポーツ吹き矢 クラブ	ウェルパルクまもと 10時～13時	ウェルパルク熊本の会議室での実施が出来ません。当分の間休止します。				原口 祐子 273-1788
オープンハウス 「KATARO」	井芹邸 13時～15時	中止	緊急事態宣言が解除された段階で検討する。			瀧口 巖 381-7582
城下町を歩く会	5月開催予定	実施コースなどは未定				平川 寛 367-1655

グランドゴルフ	当分の間休止します。				
---------	------------	--	--	--	--

※新型コロナウイルス感染拡大に伴い発せられた「緊急事態宣言」が解除される迄、すべての活動を中止することにさせていただきました。ご了承下さい。

※「緊急事態宣言」が解除された時点で、新型コロナウイルス感染状況を見極めながら検討し、会員の皆様には、改めてお知らせします。